

米沢市教育委員会 会議録

令和6年1月16日（火）

開会 午前 9時00分

閉会 午前11時46分

1 出席委員

教育長職務代理者	神尾 正俊	委員	佐藤 晃代
委員	我妻 仁	委員	渡邊 美智子

2 出席職員

教育管理部長	森谷 幸彦	教育指導部長	山口 玲子
教育総務課長	石黒 龍実	社会教育文化課長	高橋 稔
スポーツ課長	富取 桂樹	学校教育課長	植木 修
適正規模・適正配置推進主幹	森谷 純	教育総務課長補佐	米原 裕美
教育総務課長補佐兼総務主査	佐藤 真英	教育総務課主任	佐藤 祥平

3 傍聴人の有無 無

4 会議録の承認

令和5年12月5日開催分

5 報告事項

- (1) 令和5年度全国学力・学習状況調査の実施結果について
- (2) 非公開（米沢市情報公開条例第7条第2号該当事案）
- (3) 米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画の見直しについて
- (4) その他

6 その他

教育長職務代理者 米沢市教育委員会を開会する。初めに会議については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により原則公開となっているが、本日の会議の報告事項のうち、個人情報に伴うものがあること及び市議会への報告を予

定しているものがあることから、一部非公開としたいと思う。この件について、ご異議ないか。

———異議なし———

教育長職務代理人 本日の会議は一部非公開とする。

———会議録の承認———

教育長職務代理人 報告事項に入る。(1) 令和5年度全国学力・学習状況調査の実施結果について説明をお願いします。

学校教育課長 ———資料により説明———

教育長職務代理人 ご質問等いかがか。

我妻委員 今年度は家庭での生活状況に関する調査はなかったのか。

学校教育課長 家庭学習及び読書の状況に関する調査は今年度もあった。今年度の傾向として、子どもたちの家庭学習に対する意識が向上しており、読書への意識も高まっているが、学力調査の結果には結び付いていない状況である。

我妻委員 米沢市の学力調査の結果が全国平均及び県平均と同等またはそれらより下回っていることから、授業の改善を行い、家庭学習に力を入れ、子どもたちの弱点克服を行っていく必要があると思う。昨年、公開研で松川小を訪問した際に、子どもたちの弱点克服を研究テーマとし授業を行っていたことが印象に残っているが、そのような対策を行っていても学力調査の数値に結果が表れていない状況である。本人たちは学習に対する熱意があるのかもしれないが、家庭学習の量が足りないのではないかと思う。授業だけではなく家庭学習の方法についても改善を行い、小学校のうちから子どもたち一人一人の強みや能力に合った家庭学習ができるよう何か対策を考えてほしい。

学校教育課長 学校教育課で毎年「米沢っ子学びの手引き」という家庭学習の重要性を説明しているチラシを各家庭へ配付しているが、子どもたちの家庭学習に取り組む時間は伸びていない状況である。子どもたち一人一人の能力を把握し、強みを伸ばしていくことが重要だと考えているので、個別最適な学びを意識し、今後、各学校を支援していきたい。

教育長職務代理人 他にご質問等いかがか。

佐藤委員 家庭学習の時間を増やすためには、勉強を自分でするという意識が大事であると思うが、家庭学習を小学校のうちから習慣化すると「家庭学習が当たり前」という意識が根付くと思われる。また、保護者が仕事等で忙しいと「勉強は学校に任せておけばいい」という意識につながってしまう可能性がある。家庭学習の重要性と習慣化について、小学校の入学時に説明する、または低学年のうちから各家庭へ伝えるといった対策を行ってほしい。

学校教育課長 子どもたちの学力を伸ばす上で家庭学習は重要であるが、家庭学習の習慣付けが課題となっている。家庭学習の時間を伸ばせるよう今後対応していきたい

い。

教育長職務代理人 他にご質問等いかがか。

渡邊委員 私見であるが、昨年の公開研に出席して感じたことを述べたい。子どもたちの様子について、先生から教えられることは吸収しているが、教えられた内容を自ら解釈して発表するということが難しいようであった。学力を伸ばす上で、自分が学んだことを他の人に教えられるか、アウトプットできるかということが大事であると思う。アウトプットする力を伸ばすためには、どんな意見でも認め合うような環境づくりが大切であるため、「間違っただけいけない」という雰囲気ではない授業環境をつくってほしいと思う。子どもたちの学びに対する意欲を培っていけるよう今後対応してほしい。

学校教育課長 子どもたち一人一人が、授業の内容の理解度を高めるために、周囲に対してアウトプットすることや意見を発表することは重要である。授業の最後に、まとめの時間として、自分の言葉で説明する振り返りの時間がつくれるよう授業の見直しを引き続き行っていきたい。授業の内容に対して自分の考えを持った上で学習を進めることでもっと深めてみたい、もう少し学習を行ってみたいという気持ちが芽生え、それが家庭学習につながっていけば良いと考えている。

教育長職務代理人 他にご質問等いかがか。

我妻委員 昨年の第七中の公開研に出席した際に、班ごとに学習を行い課題を解決し一人一人が発表するという場面があったが、学習内容について理解度が高い生徒が班の中でリードしており、理解度が低い生徒は内容についていけないという状況があった。グループ学習が悪いとは言わないが、グループ学習を行った場合に理解度が低い生徒たちのフォローをどうするのかについて疑問が生じた。授業の内容を理解していないまま授業が終わった場合、その後はどのように対応するのか。個人的な考えであるが、家庭学習で復習するといっても宿題をやってこないこともあるため、このような場合は補習が必要であると思う。今回の学力調査の数値を見て、何か具体的な対策ができないかと思っている。

子どもたちの学力を伸ばす上で、漢字や英単語を読んで書けること、計算ができることといった基礎学力がしっかりと定着していることが重要であると思う。このような基礎的な部分について小学校の低学年のうちからしっかりと教え込み、家庭学習でも復習を行い、基礎学力の積み上げを行うことが必要だと考えている。

学力調査の結果として出た数値について、各学校の保護者に対し、自分の子どもの学校の数値がどうであるか、また米沢市の平均の数値はどうであるかについて公表することが望ましいのではないかと思う。今後子どもたちの学力を伸ばしていく上で、まず現状を理解してもらうことが改善の第一歩となるので、保護者への情報提供について検討していただきたい。

学校教育課長 グループ学習においては得意な子が活躍しやすいといった傾向があるため、グループ学習の進め方をどうするかについて各学校との間で常に話題にしている。子どもたち一人一人が授業で理解した内容をアウトプットできる場づくりに努めるよう各学校へ促し、苦手な子を置き去りにしないということを意識していきたい。

補習に関しては、家庭学習と関連することでもあるため、課題の出し方について各学校と学校教育課との間で意思統一することを心がけていきたい。基礎学力の定着については、子どもたちに考えさせる場面とともに教える場面といったものを大事にしていきたいと考えている。基本的な知識や技能を身に付けた上で、学びが深くなることが重要である。基礎学力の定着と協働的な学びの好循環が生まれるよう対応していきたい。学力調査の結果の公表については、各学校で平均と比べて自分たちの学校はどうだったかという結果や自分たちの学校の学習状況については各保護者へ伝えている。市全体の数値の公表を行うかについては今後検討することとする。

教育長職務代理者 他にご質問等いかがか。

教育指導部長 様々なご指摘とご助言をいただき感謝する。学力向上を目指して授業改善等に日々取り組んでいるが、まだまだ他にも取り組む余地があると感じている。今回の学力調査の結果を受け、考えたことが三つある。

一つ目は、学校の授業を通して、子どもたちの「好き」を見つけさせたいということである。もっと学びたいという意欲や、こうなりたいという憧れの意識を子どもたちが持てるようにしたいと思う。資料1にあるように、小学校の課題に将来の夢や目標を持つこととあり、この課題解決のためには、子どもたちが、自分の好きなものは何か、得意なものは何かということについて自分で語ることが重要である。また、保護者との情報共有も大切であり、各家庭で保護者が子どもに対してどの教科が好きなのかについて会話をしてもらうことを意識していきたい。

二つ目としては、組み合わせやつなぐという意識が大切だと感じている。総合的な学力を身に付けることが目標とされていることもあり、各教科の間でのつなぎや他者とのつなぎ、小学校から中学校へのつなぎといったものを今後強く意識していきたい。

三つ目としては、公開研で行われたような授業内容を各学校で日常的に行っていけるようにしていきたいということである。各学校の教員が授業以外の対応に追われ疲弊している状況であるため、教員の時間確保を目標にし、教員が純粋に授業内容を考えられるような環境づくりに尽力したい。また、昔であれば居残り学習というものがあつたが、現在はバスやタクシーで下校する子どもたちがいるため、補習を簡単に行えないような状況である。ICTを活用し、子

どもたちが個別最適な学びができるよう対応していきたい。

———（２）非公開———

教育長職務代理人 次に（３）米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画の見直しについて説明をお願いする。

適正規模・適正配置推進主幹 ——資料により説明——

教育長職務代理人 会議が長時間となっていることから、ここで暫時休憩とする。

———暫時休憩———

教育長職務代理人 再開する。ご質問等いかがか。

我妻委員 ロードマップ上で、松川小、万世小、上郷小、愛宕小、南原小が統合する時期について、明記されないこととなり、時期については学級編成の状況により判断するとのことであるが、複式学級が今後生じるかどうかで判断するということか。また、令和11年度までは複式学級が生じないということではいか。

適正規模・適正配置推進主幹 現時点では、令和11年度まで複式学級が生じる見込みはないが、令和12年度以降の見込みの児童数は今後判明する予定であるため、判明した段階で、統合対象となっている小学校の統合時期をいつにするか検討を開始する予定である。

我妻委員 今回のロードマップ案の中の「統合時期は学級編成の状況により判断する」という記載部分について、今の説明の内容を聞けば理解できるが、「学級編成の状況により」としか書かれていないと市民の方が理解しにくいように思われる。ロードマップ案は多くの市民の方が見ることとなるため、その部分の表現の仕方を工夫してほしい。

教育長職務代理人 計画本冊の15ページの内容がロードマップ案に記載されていると、具体的な説明となり分かりやすいと思われる。

適正規模・適正配置推進主幹 いただいたご意見のとおり、分かりやすい表現に修正することを検討する。

教育長職務代理人 他にご質問等いかがか。

佐藤委員 計画本冊の7ページにおいて小中一貫教育の種類が3つ記載されており、次の8ページにおいて「米沢市が採用するのは施設分離型の小中一貫教育である」と記載されているが、米沢市では施設分離型の小中一貫教育を採用するという点を強調するために太字で記載するなどして分かりやすくすると良いのではないか。

適正規模・適正配置推進主幹 いただいたご意見のとおり、強調した表現となるよう検討することとする。

教育長職務代理人 他にご質問等いかがか。

我妻委員 計画本冊の11ページに（仮称）統合小学校と記載があるが、これはどこの学校を指すのか。

適正規模・適正配置推進主幹 計画本冊の5ページに説明があるが、(仮称)統合小学校とは、広幡小、六郷小、塩井小の統合小学校となる令和9年度開校予定の学校のことである。

我妻委員 計画本冊の11ページに、「(仮称)統合小学校は通級指導教室の拠点校としての役割となり、興譲小は特別支援教育のセンター機能を備える施設とする」と記載があるが、これはどういった意味か。

教育指導部長 現行の計画では、興譲小に特別支援教育の様々な機能を持たせたいとしているが、特別支援教育の考え方が変わってきており、地元や地域との関わりを持ちながら特別支援教育を行うという方針になっており、特別支援が必要である子とそうではない子が交流できるような教育を目指しているところである。興譲小については、特別支援教育を行う教職員の育成の場にするを想定している。計画本冊の10ページのとおり、採用後10年以内の教職員が特別支援学級を経験することを促進し、教職員の経験値を上げていきたいと考えている。また、特別な支援が必要である子の保護者の相談窓口としての機能を興譲小に備える予定である。

統合小学校には、LD等の個別支援が必要である子どもたちが通う通級指導教室を置く予定である。現在は、興譲小、北部小、第四中にあるが、通級指導教室に子どもたちが通う上で保護者による送迎が大変であるという課題があるため、統合小学校にも通級指導教室を置く予定である。また、教職員が、個別支援が必要である子どもがいる学校を巡回するという方法もあるため、「統合小学校を拠点校にする」という表現にしたが、分かりやすい説明となるよう修正等検討したいと思う。

教育長職務代理者 現在の米沢市の通級指導教室の種類はどういったものがあるか。

教育指導部長 言語通級、LD等の2種類となっている。LD等とは、情緒面に課題があることと学習障害があることである。

教育長職務代理者 他にご質問等いかがか。

我妻委員 計画本冊の16ページで小規模特認校制度について触れているが、米沢市は今後どうするのかといったことがはっきりと分からないような書き方となっている。将来、小規模特認校をつくるという目標を明確に設定し、もう少し踏み込んだかたちで記載できないだろうか。

教育指導部長 「各小学校における児童数の見込み」の資料のとおり、学年で1クラスとなる学校が出てくるのが既に見込まれているが、必ずしも2学級以上としなければならないわけではないことをふまえ、各学校が地域との関わりを持ちながら教育を行うということも視野に入れており、小規模特認校制度をどのように活用するかについてはまだ具体的に説明はできない。今後この制度について研究していきたいと考えている。

我妻委員 小規模特認校制度を活用し、インクルーシブ教育の中核となっている学校の子どもたち同士の交流により、将来を見据えるといった、将来の進学先に中高一貫校があるという見方ができる子どもたちが出てくるのではないかと考えている。計画本冊の16ページのこの部分について、表現の仕方をもう少し変更できないだろうか。

教育指導部長 学区を広げる、様々な地域から学校へ通えるということについては検討したいが、特別支援に特化した学校へ通常の学区に住んでいる子どもたちが通うことになるということについてまだ具体的に想定していないため、踏み込んだ書き方ができない状況である。計画本冊16ページの表現の仕方について、内容の変更を検討したい。

教育長職務代理者 質問であるが、計画本冊の19ページについて、今後中学校が統合する上で各中学校が閉校することとなるが、東成中を例とした場合、最初に第五中が閉校し、次に第一中と第七中が閉校し、東成中が開校するということによいか。

適正規模・適正配置推進主幹 おっしゃる通り、その予定となる。

教育長職務代理者 他にご質問等いかがか。なければ(2)その他についていかがか。なければ5のその他についていかがか。なければ以上で本日の教育委員会を閉会する。